

ハチ博士の ミツバチコラム

22



京都大学園芸学部
バイオ環境学教授
坂本文夫

花粉

マスク姿が目立つ季節です。PM_{2.5}も心配ですが、花粉症でお悩みの方が多いと思います。花粉症の原因になるのは風媒花と呼ばれる植物（スギ、ヒノキ、カモガヤなど）の花粉で、大量の花粉が風に運ばれ、粘膜に付着するために花粉症になります。一方、花粉を動物に運んでもらう動物媒花があり、その大部分を占めるのが虫に運んでもらう虫媒花です。これらの植物は花粉を運んでくれる昆虫を誘うために花びらを目立たせたり、蜜を出すなど様々な工夫をしています。虫媒花は効率よく受粉できるので、大量の花粉を作る必要がなく、空中に飛散もしないので花粉

症の原因にはなりません。

ミツバチは代表的な花粉媒介昆虫で、多くの植物がミツバチのお蔭で立派な実をつけることが出来ます。ミツバチによる受粉の経済価値は莫大なもので、ミツバチが生産する蜂蜜やプロポリス等の生産物の価値の百倍もあるとのこと。一方、ミツバチも体に付いた花粉を6本の足で器用に集め、ダンゴ状にして巣に持ち帰りま

す。花粉は栄養豊富で、幼虫のえさや女王蜂の一生の食料であるローヤルゼリーが働き蜂により作られます。

花粉は蜜と同様にミツバチ達の重要な食料になります。このように虫媒花とミツバチは

相互に依存し、欠くことの出来ない関係を保ちながら共進化して来ました。

私達人間は生態系の中で何か役に立つことをしているでしょうか。奪うだけ奪って、何もお返ししていないと言われそうです。動物は植物なしには生きて行けないので、地球上の生き物の基本は植物だと思えます。自分が好きな花でも、ミツバチが好む花でも、何でも構いません。身の回りに小さな花壇を作ってみませんか？



イラスト おおくぼひとみさん